平成３０年度第３回山梨県公立大学法人評価委員会　議事概要

１　日　時　平成３０年８月１０日（金）午後２時～午後４時

２　場　所　県立大学飯田キャンパスＡ館２階大会議室

３　出席者　委　員　金丸康信　徳永保　古屋玉枝　山口由美子
法　人　清水理事長　相原副理事長　澁谷理事　流石理事　佐藤理事
八代国際政策学部長　村松看護学部長
佐藤看護学研究科長　柳田図書館長
二戸地域研究交流センター長　黒羽キャリアサポートセンター長　ほか
事務局　長田県民生活部次長　藤原私学・科学振興課長　ほか

＜議題＞

●（１）平成３０年度第２回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、各委員から特段の意見なく、案のとおり了解。

＜議題＞

●（２）　公立大学法人山梨県立大学の平成２９年業務実績に関する評価及び評価結果（案）について

〇委員長
本日は、資料２「論点整理表」に基づき、各委員に事前に評価していただいた各小項目について、委員の評価ランクが分かれた部分を中心に審議していく。
まず、「１－１－（１）教育の成果・内容等に関する目標」の小項目１番であるが、私がⅣとしたのは、授業科目のシラバスについて、記載内容をしっかりと確認しているというのは、全国でも実施しているところは少ない。大学として全体的な方針を決めてシラバス作成するということはどこの大学でも行っているが、それを個々の教員に対して徹底させるということは大変だろうということで、少しきめ細かいところではあるが、高く評価したら良いのではないか。

〇委員
シラバスの確認について、他大学の状況を承知していないので、その辺を加味せず、計画どおりに実施したということでⅢと評価をした。

〇委員
私も他大学のことは存じ上げないので、そういうことであればⅣでも良いかと思う。

〇法人
年度計画には「シラバス様式の変更」と記載があるが、これは学士力をシラバスに入れ込むに当たりシステム変更をしなければならず、経費がかかることで現在準備をしているところである。それが出来れば完全にシラバスに学士力が織り込まれるということになるが、29 年度はまずは学士力をシラバスに明示することを周知し、徹底させるということで、来年度には完全な形のシラバスになると思う。

○委員長
　それでは来年度以降に期待することとし、1番はⅢとする。
　次に4番であるが、法人の自己評価はⅡ、委員評価はⅡが3人、Ⅲが2人となっているがいかがか。

○委員
　中期計画で半数以上の学生がTOEICで何点とるという目標があるが、それはあくまで中期計画で、年度計画に関してはしっかり取り組まれている。それから学生の満足度の高いプログラムであったということを評価し、Ⅲとした。

○委員
　年度計画の進捗状況に関して評価するということは重々承知しているが、中期計画で数値目標を掲げており、それを達成するには今の状況だと厳しい状況にある。もう少し数値的な実績を上げていくという部分を追求していかないと中期計画の達成は難しいのではないかと思い、あえてⅡと評価させていただいた。

○委員
　私も同じ意見である。学生の英語力を更に向上させる必要があるということで、取り組み自体は評価できると思うが、結果に結びついていないということでⅡとしている。

○委員長
　年度計画の評価と中期計画終了時点での教育研究の成果に関するアウトカム評価とは、性格が異なっており難しい部分ではあると思う。年度計画の実施状況からしてⅡという評価は厳しいのかなという思いもあるが、一方で大学の自己評価でⅡとしているので、それについて積極的に高く評価する必要はないとも思う。Ⅱということでよろしいか。（異議なし）

○法人
　大学としてもⅡという評価で、それを今後上げていくために様々な措置を考えなければならないという思いである。

○委員長
　続いて5番であるが、私だけがⅣとしているが、少し私から理由を説明させていただきたい。今日本の大学に求められていることは、一定のコース、カリキュラムのプログラムを前提にして、そのコース・プログラムを修了したときにトータルとして学生にどのような知識や能力が身についているのかということを明らかにするということ。例えばアメリカでは日本の学部みたいなものは大きく2つぐらいしかなくて、その中で大学が用意したプログラムを学生が選択して、そのプログラムを修了するとどのようなことができるようになるのか、4年経った時点での知識や能力がかなり明確にされている。そのことを学生が就職する企業に対して大学が保障していくという仕組みになっている。例えば、日本中に機械工学科は何百もあるが、卒業してどのような知識持っているのか分からない。機械工学科を卒業したことは分かっても、どのような力が身につい

たのかが分からず、これでは国際的に通用しない。プログラムに示された力が身についていない学生は卒業できないということで、就職する企業などに質を保障していくというのが世界的な動向で、今現在、文部科学省でもそれをもって教育の質の保証、学習成果の保証という方向で動いている。その意味において、私が高くここを評価するのは、コース制授業科目を確実に実施するということで、コース、カリキュラム設定をかなり綿密に行い、学位プログラムの考えに基づいてコース設計をしっかりしており、日本の大学改革を牽引するような取り組みを評価していいのではないかと思ったからである。

○法人
国際政策学部は 2 つの学科、更に 3 つのコースを持っているが、学科毎にもコース毎にも学士力を設定している。もちろん共通する部分もあるが違う部分もある。それぞれに 4 年間で身につけるべき学士力というのを明示して、3 つのコースそれぞれに具体的な学習成果を目に見える形で設定し、その達成度合いも数値で可視化できている。その意味でプログラムとしての性格が非常に強くなっている。

○委員
専門分野だけじゃなく幅広く知識を身につけることが非常に大事だと思う。そういった意味において学科を横断したゼミは良い取り組みであると評価できる。私もⅢかⅣか迷ったところで、Ⅳで良いのかなと思う。

○委員
日本の大学が抱える課題に対してしっかりと取り組まれて、1 つのモデルになるということを委員長から伺い、Ⅳでも良いと思う。

○委員
前回も申し上げたが、年度計画に対してなぜ自己評価がⅢなのか、結論までの課程が書いていないので、その判断理由が分からない部分がいくつかあったが、大学が計画どおりと考えて自己評価をⅢとしたのであれば、Ⅲなのかなというところも正直ある。
他の大学の状況が分からないが、委員長の話を聞くとⅣでも良いのかなと思う。

○委員長
年度計画では「体制を作る」という記載があるが、体制を作った以上に実際にコース制授業科目を開設して、学生が受講しているということで、それ以上に実績が出ているということであるので、ここは自己評価もⅣで良かったのかなと思うが、委員に異論がなければⅣということにしたいと思う。
続いて 10 番についてであるが、Ⅲが 4 人、Ⅳが 1 人であるがいかがか。私は海外広報が円滑に実施され、成果が出ているとしてⅣと評価したが。

○委員
実績報告書を拝見した限りでは計画どおり取り組んでおられるということでⅢと評価させていただいた。

○委員
　ⅢとⅣの違いについて、計画どおりにしっかりと実施できていると判断した時にⅢと評価し、特筆すべき何かがあった時にⅣと評価するようにした。何かもう1つあればというところではあるが、ホームページの多言語化は大学の国際化という意味でとても良い取り組みであるとは思う。

○委員長
　もし委員にご異論なければ、委員から様々コメントが寄せられているので、Ⅳにさせていただければと思うが、いかがか。（異議なし）それではⅣとさせていただく。
　次の11番についても、私だけがⅣとしているが、年度計画で「入試の結果と入学後の成績(GPA)との関連から入試結果の妥当性について引き続き検証する。」としており、全学的な入試委員会で実施されたということを私はかなり評価をした。小規模の大学では当たり前と言われればそれまでだが、大規模大学では学部を越えて全学的に入試結果をGPAとの関連から検証するというのは実施していないと思うが、大学としてはどう考えるか。

○法人
　委員長がおっしゃるように小規模な大学であるからこその強みであると思う。学部単位ではこれまでも実施してきたが、初めて全学的に取り組み始めたということで、まだ1年が過ぎただけであるので、引き続き検証を進めていきたい。

○委員長
　それでは、11番はⅢとする。
　続いて12番であるが、ここも私だけがⅣとしているが、年度計画に「GPAデータに基づいて、修学指導を行う」と記載がある。多くの大学で単位が取れなくて進級できないとか、卒業できそうもないとなった段階で、親御さんに連絡するというようなことがあるが、GPAの段階で各学部において修学指導されているということが非常に素晴らしいと思いⅣと評価した。実際に履修指導の対象の学生はどのくらいいるのか。

○法人
　本学では学部毎に担任制やチューター制をとっており、4月のオリエンテーション時に成績表を渡すときに、成績不良等の問題のある学生は個別に指導するなどしている。また、全学生がゼミに所属しているので、担当教員から日頃の学習態度や、成績に関しての個別のアドバイスや指導を受けるというケースも多々ある。小規模な大学としての教員と学生の距離感が非常に近いという特性を活かしながらそういった指導を伝統的にやってきたところであり、我々としては当たり前という感覚ではあるが、ただ現場では非常に努力している。

○委員長
　具体的に履修指導される対象はやはり成績不良学生ということか。

○法人
　そのとおりである。

○法人
　少し補足説明をすると、GPA が 1.5 以下の場合に、チューターやクラス担任、あるいはゼミ担当などいろいろな方法を用いて各学部できめ細やかな指導をしている。看護学部で 3、4 年前に教授会でこういう場合にはこういう指導というようなフロー図を作り、それを全学の教育委員会にあげて、現在では全学的なフロー図に基づいて指導している。

○委員
　私が大学生の頃とは時代が違うので比較のしようも無いが、本当にきめ細やかな指導というものを実施されており、私の通った大学と比べるとうらやましく感じる部分もある。

○委員長
　県立大学として県民に期待されており、県立大学はこんなにきめ細かく学生に対して指導しているということが、県民の皆さまに分かっていただいた方が良いと思うが、その点を踏まえるといかがか。委員から評価のご意見をいただく中で、県立大学にとっては当たり前かもしれないが、ここはきめ細かく学生に対して指導されている点を評価してもいいのではないかと思うがいかがか。

○委員
　委員長がおっしゃったとおり、県民の皆さまに伝えるという意味では、ここがポイントになるのかなと考えるとⅣで良いと思う。

○委員
　私もⅣで結構である。

○委員長
　それでは、12 番はⅣとさせていただく。
　続いて 13 番のアクティブラーニングについては、Ⅲが 3 人、Ⅳが 2 人である。年度計画には「検討を行う」と記載があるが、様々な取り組みを検討するだけでなく実施しているということで、検討より進んでいるということでⅣとしたが、大学としてアクティブラーニングについてどう考えているか。

○法人
　これは地方創生事業の一環でもある。大学 COC 事業、COC＋事業とも関連するが、本学では 1,200 の開設科目のうち 3 割くらいは地域人材育成科目群となっており、地域の課題解決に繋がるような科目を設けている。その中で体験学習やアクティブラーニングといった教育方法などを工夫して実施しているのは本学の特徴かと思う。更に全学レベルの FD や学部レベルの FD で、アクティブラーニングに関する研修を開催し、教職員でそれを共有しているという状況にあり、本学でも重点的に頑張っているところである。

○委員長

委員にご異論がなければ、Ⅳとさせていただきたいが、よろしいか。（異議なし）
大項目のＳとかＡ、Ｂといった評価ランクについては後ほどまとめて御議論させていただく。

○委員長
続いて、「１－１－（２）教育の実施体制等に関する目標」の小項目 14 番である。これは大学の自己評価がⅣだったが、私がⅢとしたのは、学生の授業評価というのが極めて単純な項目だけで、非常に厳しい言い方すると、学生の感想文程度のことに終始されているので、次年度に活用できるような授業評価結果にはなっていないのではないか、Ⅳと評価するほどではないのではないかと。
大学の方で自己評価Ⅳとしているが、改めてその理由の説明をお願いしたい。

○法人
全学レベルと学部レベルの FD･SD については計画どおりに実施し、毎回出席率のデータを取っており、非常に活発に、高い水準で行われていると言えると思う。学生による授業評価については、昨年度大幅にシステムを変え、これまで 10 項目あった評価項目を 4 項目とした。それは学習成果の可視化のためにこの授業評価を活用しようということで、学習成果を身につけたかどうかという設問を設けた。今後は個々の授業改善というより組織の改善という意味で、学士力の見える化のために授業評価制度を変え、通常の学生による授業評価とは違う。新しい授業評価というのはまさにそういう意味で、旧来型のものから変革し、それを越えた授業評価というものとなった。次年度に活用できる授業評価結果というのはまさに学習成果の可視化ということである。

○委員長
それでは、各委員のⅣという評価も踏まえ、ここはⅣとする。
続いて、「１－１－（３）学生への支援に関する目標」の小項目 15 番である。ここも私は非常にきめ細かい指導をされているということで高く評価をしたが、特にラーニングコモンズを整備したということである。このラーニングコモンズを上手に使うと、学生の 1 日の学習時間が飛躍的に増えるという調査結果が出ており、私自身とすればラーニングコモンズを整備したこと自体がとても評価できるのかなと思うが、具体的な成果は出ているのか。

○法人
学生の学習時間数については把握できていないが、図書館の今年 4 月から 7 月の入館者数は 14,699 人で、昨年同期と比較すると、13,026 人で 1,000 人近くの入館者数が増えている。その他、授業・ゼミ等で利用される先生の数が 7 件で、その中では併設の絵本・紙芝居など地域資料を活用したグループワークなどにも活用されている。また、机の形や組み合わせを自由に変えることができ、個人でパソコンを使った利用ができるということもあり、学習環境としてはある程度の効果を生むものになっていると認識している。

○委員長
29 年度に整備して、活用は 30 年度からということで、成果は今後に期待することとして大学の自己評価のとおりⅢとする。
続いて 17 番についてである。Ⅲが 3 人、Ⅳが 2 人である。物凄く膨大な保健センターの資料

があり、私としては資料を拝見するだけで、とてもきめ細かい管理をされていると思ったところであるが、委員からもきめ細かいメンタルケアを実施しているという評価をいただいている。

○法人
　この健康調査などについて報告が上がってくるが、毎年非常に細かい調査をしており、その結果に応じてきめ細かい指導をしているなということで私も感心している。本日欠席の保健センター長が自己評価をしたので、毎年のことで当たり前と思っているかもしれないが、非常に綿密な調査と指導をしていると思う。

○委員長
　学生のメンタルヘルスは全国的な課題となっているが、その点に関して県立大学として何か具体的にメンタルヘルスに着目して全学的に取り組んでいるのか、それともまだ保健センターの取り組みという状況なのか。

○法人
　全学 FD で健康問題を必ず取り上げており、学生の状況について教職員が共有できる場を設けている。ただ、非常に高いレベルで実施していることは確かだが、どこの大学でも学生支援の一環として実施しているとは思う。

○委員
　企業でもストレスチェックが義務付けられて、非常に大きな課題となっている。学生の頃からそのようなことを経験しておくというのは、企業に入ってからも自身の健康管理を意識づけるという意味においても素晴らしい取り組みであると思う。

○委員長
　大学だけでなくどの組織においてもメンタルヘルスがかなり重要な課題となっているので、そのことについて県立大学として真正面から取り組んでいるのかどうかということ。

○法人
　もちろん正面から取り組んでおり、メンタルヘルスの問題を抱えている学生は毎年多いと思うが、あまり表面化してこない。それはその前の段階の相談や指導で収まっているからではないかと思う。ただ調査しているだけではなくて解決している、しっかりとやっていると言える。

○委員
　私としては当たり前かなと思って、Ⅲの評価としている。

○委員
　Ⅲについても年度計画を順調に実施しているという評価なので、決して否定しているわけではなく、大学がⅢと自己評価をしており、私としても順調に実施しているなということでⅢと評価している。

○委員長
　メンタルヘルスの問題については、今後の大学としての更なる全学的な取り組みを期待するということでⅢとする。
　続いて 18 番の授業料減免についてである。これを私は高く評価したが、運営費交付金との関係でいうと、第 1 期に比べて非常に高い授業料減免比率を運営費交付金で確保している。その上で更に大学の平成 29 年度の減免比率は、運営費交付金を想定したものよりも 0.6%も上回って減免しており、大学の自己努力で上回っているもので、これはやろうと思っても簡単にできることではない。逆にどうしてここの大学の自己評価をⅢとしたので不思議である。

○法人
　これは年度計画で具体的な数値目標を書いたので、その通りに実行したということでⅢとしている。年度計画は非常に褒められてしかるべきだと思うが、結果はまさに計画どおりということになる。

○委員長
　全国的に見ても、このように学生の生活支援をするといって目標を掲げても、その通りに予算を獲得するとか、その通り実現するということはなかなか難しいのではないか。委員がⅣという評価をしたのも、そういったことを踏まえての評価だと思う。
　県当局が予算を予定どおりつけていただいたこと、そして大学がそれを上回る計画を立て、それを実現したということは県民の皆さまに対する大きなアピールなる部分であると思う。ここは委員に特段のご異論が無ければⅣとさせていただきたいと思うがいかがか。（異議なし）それではⅣとする。
　続いて 19 番であるが、私だけⅣと評価したが、他の委員の意見とおりⅢということとする。

○委員長
　次に「１－２－（２）研究実施体制等の整備に関する目標」の小項目 23 番について、委員評価はⅢが 4 人、Ⅱが 2 人となっている。私はⅡと評価したが、年度計画に「学部を越えた研究体制が敷けるよう、全学的な支援体制を継続する。」とあるが、実績報告書や参考資料に具体的な記述がなく、前回の評価委員会においてもこの点をお聞きしたが、地域研究交流センターは学部付属のセンターではないのでセンターの事業が学部を越えた研究であることは当たり前で、なぜセンターの研究事業が大学全体としての学部を越えた研究体制となるのか。繰り返しになるが、大学が学部を越えた研究体制を支援するという全学的な支援体制ということは、どの学部に属している素晴らしい研究であっても、センターを中心に全学的に支援をするということを実現することを意味する訳で、そういう形でのことを行われているという説明があれば、特段Ⅲにすることは構わない。その点について、追加資料と説明をお願いしたい。

○法人
　追加資料を用意しているので後ほどセンター長から説明させていただくが、その前に私から全学の研究実施体制について説明させていただく。まず研究担当の理事をおいている。それから基本的に研究は個々の教員の個人研究が基本となり、個人研究でも共同研究でも外部資金を獲得するということを大学として奨励したり、その為の予算を確保したりしている。その他に組織的な

研究があり、これについては学長プロジェクト研究という形で予算を付けている。各学部から特徴的な研究を応募してもらい、それは個人の研究ではなく、学部や場合によっては学外者にも協力を得た研究で、これは外部委員も含めた委員会で審査・採択して、更に研究結果を報告してもらい評価をするという流れで実施している。これが1つの全学的な研究支援と言えると思う。もう1つ地域課題を解決する為の研究を地域研究交流センターで行っており、これについてはセンター長から説明していただく。

○法人

地域研究交流センターでは様々な事業を展開しており、その中の1つとして地域研究事業を展開している。これは学長裁量予算から始まり、今年度から全学的な予算として200万円を確保している。重要な点は、各学部を横断的に、あるいは複数学部の教員が参加して、学部毎の個人研究ではないということ。また、地域課題解決に関する研究であるので、地域の様々な機関と連携ができているかということ。それを外部委員も含む選考委員会で評価して採択するという流れになる。研究成果については、冊子にまとめ、研究発表会で公表し、ホームページ上にも掲載している。昨年度は7件採択し、地域における様々な課題を大学として研究し、解決していこうということを実施しており、どの研究も複数学部の教員が参加して相互に研究をするという体制を敷いている。

○委員長

毎年定期的に地域研究を募集して実施してというだけでは、それはあくまでセンターの活動となるので、ポイントは現に行われている学部教員の研究活動を実際にセンターが支援するような、例えば産学官連携で相手先が見つからないとか、産学官連携の方法に困っている教員に対して、個別具体に支援機能というものが発揮されているのかという点についてはいかがか。

○法人

昨年度まで大学COC事業で14のプロジェクト型研究を実施しており、その関連で外部からの相談を受け付けたりということは行っている。

○委員長

そこの点については実績報告書に、個別具体の各学部の個々の研究を全学的にいかに支援したのか、いかに各学部で行われている研究を全学的な、学部を越えたものに統括していくのかということの記述がなく、年度計画と同じようなことしか書いていなかったので、そういった説明をお聞きしたので、ここについては大学の自己評価、他の委員評価と同様にⅢとさせていただく。

続いて25番である。これについても追加資料を用意していただいているが、年度計画には「研究業績評価結果を公表する」と書かれており、事前に追加資料を拝見したが、これは役員会資料をコピーしたもので取扱注意と記載があるが、その後公表されたのか。

○法人

これは役員だけである。学内外に出せない理由としては、この資料だけで個人が特定されてしまい、不利益に繋がるかもしれないということで公表は差し控えることとした。その資料以外に、全学のFDで公表したものを用意したが、これであれば個人の特定はできないので、学内には公

表している。どちらの資料についても学外には公表していない。

○委員長
　公表という以上、学外にホームページなどで公表しない限りは公表と言えない。厳しいようだが、これでは公表になっていない。他の委員はいかがか。

○委員
　計画どおりに実施しているかという部分で公表の定義の問題かと思う。法人がおっしゃったことを考慮すると、限定的な公表となってしまうのかなとも思う。

○委員長
　一般的には、議事録をホームページに公表すると同じように、世間一般に広く公表することを指すのではないか。

○法人
　もちろん私としても、公表というと学外含めて、ホームページ等で公表するという認識で 2 年間実施してきたが、結果的に個人が特定できてしまうと良くないだろうと判断して控えてきた。また FD の資料を公にしても意味が無いので、例えばもう 1 年実施して 3 年間の全体で公表するなど、いずれ実現したいと考えている。公表についてはお約束するが、この教員業績評価結果については、毎年の 1 月 1 日の給与昇給の査定に活用しているということに特徴があるということは伝えておきたい。

○委員長
　実績報告書には学長表彰のことだけ書かれていて、全学 FD の資料にあるような教員業績評価結果のパーセンテージだけでもホームページに掲載していただければ公表になると思う。学長表彰だけでは公表とは言えない。

○法人
　当初は全学 FD の資料をホームページに公表するつもりだったが、最後に公表する段階で、これではあまり意味が無いと私が判断して外したという経過がある。意図的に公表していないということではない。

○委員長
　年度計画で公表するとしているが、結果的には公表されていないということである。例えばここでⅢと評価して、一般の方が Web サイト探したが、どこにも掲載されていない、評価委員会は何を評価しているのだということにもなってしまうので、公表されていない以上はⅡとさせていただく。
　続いて「２　地域貢献の関する目標」の小項目 30 番であるが、ここについて委員からⅣという評価をいただいている。

○委員

高大連携を具体的に進めたということで、そこを評価したいと思う。

○委員
今までも継続してきたという視点でⅢとした。

○法人
これについては高大連携によって身延高校の生徒達が表彰されたということがあった。

○法人
補足すると、昨年度身延高校と一緒に取り組んできた連携事業が、内閣府が主催した地方創生コンテストで入賞し、さらに知事表彰も受けたということで良い成果が生まれた。

○委員長
今おっしゃった表彰を受けたことについては、35 番で実績として書かれており、私はそこはⅣにすべきじゃないかと評価している。委員からはこの点を高く評価していただいて 30 番と 35 番をⅣと評価していただいているが、ご異論なければ 30 番の方はⅢとし、35 番でこのことを高く評価してⅣとするのはいかがか。（異議なし）
次に 36 番について、2 人の委員から大学自己評価に対して少し厳しめの評価がされているが。

○委員
看護学部の県内就職率はとても素晴らしいと思うが、他学部については県内就職率がなかなか上がってこない。そこを強調するという意味でⅢと評価した。

○委員
看護学部の県内就職率 55%以上を達成するという中期計画に対して、2 年続けて 70%近くまできたということで、看護学部の目標が達成できているということと、これを継続して貰いたいという期待を込めてⅣと評価した。

○委員
県外出身者の県内就職率が伸びているという点を大変素晴らしいことであるとしてⅣと評価をした。

○委員長
看護学部の県内就職率と他学部の県内就職率が傾向としては異なっているということで、全体的な評価をどうするかということである。委員がおっしゃったように、全体として県外出身者の県内就職率が増えているという点については、私も高く評価しても良いのではないかと思う。また、特に県内企業へのインターンシップ参加率が増えているということについて、どこに就職するかは最終的には学生本人が決めることであるので、大学の努力としては評価すべきではないかと思う。

○委員

看護学部の県内就職率が高いという点はとても評価できるが、看護学部は女性が多いので、比較的県内就職の割合は高くなると思う。どうしても他学部の学生が県外に出て行ってしまうということが気になり、山梨県立の大学としてという期待感もあり、あえてⅢとさせていただいた。正直難しい部分である。

○委員長
エビデンスとして提出された資料を見ると色々と書いてあるが、実績報告書には県内企業へのインターンシップ参加率についてはあまり書かれていない。委員の承認が得られるならば、ここの評価はⅣとさせていただいた上で、実績報告書の記述について、看護学部以外の学部においてもインターンシップのことなど最大限の努力をしており、その結果が県内就職率は別としても、様々な形で良い効果が出ているということを具体的に書き込んでいただければと思う。それを条件として評価はⅣとするということでよろしいか。（異議なし）
続いて「３－１　業務運営の改善及び効率化に関する目標」の小項目 43 番であるが、Ⅲが 3 人、Ⅳが 2 人である。

○委員
前回の評価委員会で委員会組織の見直しについて委員長から高く評価できるという話を伺ったので、その点を考慮してⅣとした。

○委員
委員会組織と運営方法の見直しということで、実際に社会連携課を新設したということだが、実際にどのように機能しているのかという部分を見てからと思い、評価はⅢとさせていただいた。

○委員
Ⅳというところまでは判断できなかったのでⅢとさせていただいた。

○委員長
ここの点について、今年度も継続してこのような試みはされるのか。

○法人
全学的な委員会については昨年度に大きく見直しをしたので、必要に応じて検討する。1 つ減らすだけでも大変なことだが、実際に減らすことができた。また、大学の質保証委員会や環境委員会、FD・SD 委員会については、学長が率先するということを明示するために学長を委員長し、そういう意味での委員会統合というのは効果が出てきていると思う。もう 1 つは、これまでのキャリアサポートセンターと地域研究交流センターの事務部門を統括して少ない人数で地域貢献を実現していくためには、組織改編が必要ということで社会連携課を新設した。働く場所も統合して、4 月から稼働しているが、今のところは順調だと思う。

○委員長
仮に今後も委員会組織というのを継続的に見直して、例えば次年度以降もⅣをつけるという機会があればともかく、これで一段落したと言うのであればⅣを付ける機会は今回しかないのかな

とも思う。

○法人
　国際教育研究センターの全学組織化を計画しており、その中で関連した全学委員会の見直しもあるので、これで終わりということはない。

○委員長
　それでは大学の自己評価、委員評価のとおりⅢとする。
　44 番のプロパー職員に対する研修については、私は実践的な研修形態を導入したということを高く評価してⅣとした。これまで様々な研修を受けたが、座学の研修がほとんどである。最近の企業などの研修はこの程度は当たり前なのか。

○委員
　社風というか、そこのトップの意識によるとは思うが、そういった意味においては実践的な研修を実際にされているということは評価されてもいいかなと思う。

○委員長
　ここの点についても、もう少し具体的に実績報告書に記載していただければと思うが、大学の自己評価もⅢであるので、ここはⅢとする。実績報告書もそうだが、年度計画もある程度具体的・体系的に作成していただきたい。
　次に「３－２　財務内容の改善に関する目標」の小項目 45 番について、私は判断に迷ったが他の委員同様にⅢで構わない。
　続いて 47 番について、私だけⅣと評価したが、年度計画では「経費の抑制の観点から、新電力を導入する」として、計画どおりということだが、これは交渉事で計画してみたもののうまくいかないということもある。結果的には大きな金額が節減されており評価できると思うが、この程度の節減努力は当たり前であるのか。今後このように大幅な節減する機会というのはあるのか。

○法人
　管理部門の経費を削減していくというのは限界があると思う。必ずしも削減が良いとは思ってないので、むしろ他の教育研究経費等で節約できるところを考えていく必要がある。管理部門は予算額の 7%程度で、それを更に節約するというのは限界に来ているのではないかと思う。

○委員長
　そういうことであれば、ここはⅣと評価してあげたいが、他の委員はよろしいか。（異議なし）それでは 47 番はⅣとさせていただく。
　続いて「３－３　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」の小項目 49 番である。認証評価は大学としての法令上の義務であり、法令上の義務と同じように実施するということを年度計画に書くこと自体どうなのかという気もするが、問題は結果を適切な大学運営に生かすということである。しかし、実績報告書に具体的に大学運営にどう生かしたかということがどこにも書かれていない。学士力の評価、学習成果の評価は教育活動の評価となるが、ここは管理運営に関する目標であるので、大学の管理運営、ガバナンス、マネージメントに関する自

己点検・評価として、具体的に大学運営にどのように反映されているのかということが書いていない。教育活動の評価であれば間違いなくⅣかと思うが、繰り返しになるがここは大学の教育活動に関する自己点検、自己評価ではない。

○委員
　今委員長おっしゃった話を聞くと、Ⅲという評価になるのかなと思う。

○委員
　管理運営に関してということであれば、Ⅲで良いか思う。

○委員
　委員長おっしゃったように何か具体的な成果が見えにくかったということでⅢとしている。

○委員長
　それではここはⅢとする。
　続いて「３－４　その他業務運営に関する目標」の小項目 52 番である。ここは先ほども申し上げたが、ラーニングコモンズを整備したということで私はⅣと評価したが、他の委員はいかがか。

○委員
　設備の計画的な点検・修繕について資料を拝見し、実際に点検等を実施していることは確認できたが、設備に精通している方が実施しているということではなかったので、そのような方がいた方がより実質的ではないかと気になったが、計画的な点検等自体は実施しているのでⅢとした。

○委員
　職場巡視など、必要なことを着実に実施しているということでⅢとさせていただいた。

○委員長
　ラーニングコモンズについては先ほども申し上げたとおり、授業以外の学習時間が増えるというデータがあるので、ラーニングコモンズの活用状況や成果を見た上で評価することとして、ここはⅢとする。
　続いて 54 番について、私はⅣとしたが他の委員はいかがか。

○委員
　先ほど学生に対するきめ細かいメンタルケアが評価できるとしたが、教職員のストレスチェックについては、計画どおりに実施できているということでⅢとした。

○委員
　計画どおりできていると思うが、情報セキュリティ研修の参加率が 42%と半分以下であったので、参加できない人に対してはアンケートやチェックリストといった代替案を設けるなり、あるいは参加率アップのためのモチベーションを上げられるような取り組みが必要ではないかと思う。

○委員長
　コンプライアンス関係で法令に基づいて実施していくことは当たり前のことであるが、情報セキュリティ関係や教職員ストレスチェックなど、何かがあってからでは遅いので、委員からご指摘いただいた部分については、今後具体的に進めていただきたいということを申し上げて、ここはⅢとさせていただく。
　小項目の評価は以上である。続いて、大項目で委員の意見が分かれている項目について調整させていただきたい。Ｓ評価は特筆すべき進行状況にあるということで、かなり絞った形で付ける必要があるので、具体的にはどの項目をＳにするかということを、全体のバランスを見ながら御議論いただければと思う。まず、１－１－（１）は、Ａが３人、ＳとＢが１人となっている。

○委員
　地域貢献度の高い教育を実施できているという点を高く評価してＳとした。

○委員
　私は「大項目評価基準の目安」を基準に小項目評価の状況で判断しているので、特にＢにこだわりがあるというわけではない。

○委員長
　学士力について、コース全体を通じた学士力の設定について、もう少し前面に出ていた方が良かったのかなと思う。資料を拝見する限りは、かなり細かく授業科目毎の記載しか無かった。
　また、4 年間を通じて得られる能力というのは必ずしも各授業科目の足し算ではなく、授業科目で得られた知識を総合して得られるような専門的な能力であると思う。例えば法学部であれば手続きを重視することと利益考量する力という 2 つくらいで、そのぐらいにまとめられたら良いのではと思う。もう 1 つは一般的な汎用的能力についてもまとめていただければと思う。私としては法人が現在精力的に取り組んでおられるので、完成形を見てきてからの評価でも遅くはないのかなと思うので、他の委員に特段異論がなければここはＡとさせていただいて、次年度以降も更にブラッシュアップしていただくことを期待するが、よろしいか。（異議なし）
　それから１－１－（３）であるが、ここはＡが３人、Ｓが２人となっている。私は授業料減免を計画どおりに実現したこと、学生のメンタルケアをきめ細かく実施したことを高く評価したがいかがか。

○委員
　Ｓで結構である。

○委員
　一通り拝見させていただいて計画どおりに実施できているということでＡにさせていただいた。

○委員長
　学生に対する支援というのは県民の皆さまも期待している部分で、運営費交付金措置額を超え

て、大学の自己努力により授業料減免率を拡充したということで、県民の皆さまに対するメッセージとしてここはＳが相応しいと思うが、いかがか。（異議なし）それでは、ここはＳとさせていただく。

それから１－２－（２）については、私はＢとしたが、先ほど研究体制の全学的な支援という部分で説明をいただいたので、特段Ａでも構わない。ただ、先ほども申し上げたが、様々な学部で実施している研究を地域研究交流センターの基に位置づけて全学的支援をしていくという仕組みが実績報告書には残念ながら書いていない。各学部の研究に目を配って、その中で特に力を入れる部分という点では地域研究交流センターの事業として位置付けて、そういう形で全学的支援をするという説明を記述していただければと思う。

続いて、２の地域貢献に関する目標については、Ａ評価が３人、Ｓ評価が２人となっている。

○委員

先ほども申し上げたが、地域貢献については様々な取り組みを実施していると思う。ゼミ活動で甲府中心市街地の活性化に取り組んだり、四菱研究所などユニークな活動をしたり積極的に地域貢献活動をしている。また、COC＋事業でも梨大等と連携して取り組んでおり、こうした点を評価してＳとした。

○委員

委員長の話を伺って、県民の皆さまに対するメッセージとか、公立の大学としてということを踏まえて考えると、地域貢献は県立大学に期待される大きな目標の１つであるので、Ｓにしたいと考えている。

○委員

小項目 36 番で看護学部以外の県内就職率のことで意見を申し上げたが、県内企業へのインターンシップ参加率の向上など地域貢献に積極的に取り組まれているので、ここはＳで良いかと思う。

○委員長

それではＳとさせていただく。

大項目の評価は以上であるが、全体として先ほどからの委員の意見にもあるように実績報告書の記述が足りていない箇所がある。年度計画を繰り返すような書きぶりであると全てⅢになってしまうわけで、計画どおりではあるが、達成するためには大変な努力を要した、計画を具体的にどのような形で実現し、予定したものより良い成果を得られたなど、もう少し記述の面で、あるいは参考資料なりの数値の上で分かるように記述していただきたい。その点については、今日の評価結果を踏まえて、また本日議論してない箇所でも、評価Ⅳの小項目、評価Ｓの大項目についてはもう一度記述について見直していただきたいと思う。県民の皆さまになぜⅣなのか、Ｓなのかということが伝わらないので、是非よろしくお願いしたい。

◆事務局

資料３により説明。

〇委員長

これは原案であるので、全体を確認していただき、追加や修正のご意見があれば事務局にメール等をしていただいて、最終的には事務局と私で整理をさせていいただきたいと思うがよろしいか。（異議なし）

（以上）